

2022年2月28日

3月3日は耳の日

～ここ福岡から、まずは子どもから、難聴理解の出前講座を順次実施予定～

福岡市を拠点に難聴理解促進を展開する「一般社団法人言葉のかけはし」（福岡市、代表理事：岩尾至和、以下かけはし）より耳の日（3月3日）に寄せて、活動内容をお知らせいたします。耳の日は、難聴と言語障がいをもつ人々の悩みを少しでも解決したいという、社会福祉への願いから始められたもので、日本耳鼻咽喉科学会の提案により、昭和31年に制定されたものです（※1）。

まずは子どもから！ 難聴がわかるアニメ「なんちょうなんなん」を活用した出前講座

かけはしは、コロナ禍の今だからこそと昨年10月に設立しました。聴覚障がい者は、「聞こえないからできないだろう」と思われることが多く、勉強や仕事など、多くの場面で挑戦の機会が減ってしまう現状があります。一方で、聞こえなくても双方の協力とちょっとした工夫さえあれば、聞こえないが故の突出した能力（視覚情報・機微を読む力など）を発揮でき、良い成果へ繋がられます。しかし残念ながら、世間の難聴に対する理解は圧倒的に不足しています。その課題解決の一手として、昨年秋に難聴がわかるアニメ「なんちょうなんなん」を活用した出前講座を福岡雙葉小学校にて実施いたしました。



児童の感想文は「補聴器を付けているから、ほとんど聞こえるだろうと思っていたので驚きました」「町などで障がいを持つ人を見かけたら、少し避けてしまうことがありました。この教室を機に、積極的に手伝ったりしてあげたいと思いました」といった気づきにあふれ、大きな手応えを感じています。幼少期からこのような学びの場があれば、勉強や友達との人間関係を更に発展させることが可能になります。それは、「聞こえないからと諦めずに挑戦できる機会」が増えることに他なりません。そして、難聴について学んだ子どもたちが大人になった時、仕事等の面で理解が深まることによって難聴者の選択肢は拡がり、共に過ごしやすい社会になっていくはずです。だからこそ、まずは子どもたちへ「聞こえない世界の正しい理解」を伝えることを目的とした難聴理解に関する出前講座を順次展開いたします（現在2校決定）。お問い合わせはかけはしサイトまで。（※1）一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 HP より。同日は電話の発明者であり、ろう教育者であったグラハム・ベルの誕生日でもある。<http://www.jibika.or.jp/citizens/miminohi/mimi.html>

全国的なネットワーク構築へ「あの時、そのことを知っていれば……」がなくなる日を目指して

この度、ろう学校教員の経験を活かして聴覚障がいに関する様々な情報提供を展開する石川阿（ほとり）氏と協力・連携する運びとなりました。同氏が運営する『ほっとりんく』（※2）は、全国ろう学校一覧などの「教育機関一覧」及び、47都道府県の「新生児聴覚スクリーニング検査に関するサイト」、各自治体が発行している「新生児聴覚スクリーニング検査の手引き」「保護者向けリーフレット」等を始めとし「都道府県別サイト・手引き一覧」など各種コンテンツが揃っております。自治体によって申請先・相談先が異なることもあり、複数の情報をフラットに知るサイトがなかったことから「必要な情報が幅広く知れる場を作りたい」「未完成だが多くの方の協力を得ながら生の情報を載せていきたい」との想いを原動力に本サイトを立ち上げたとのこと。新たなパートナーと共に情報共有を密に進め、各エリアの情報提供を募りながら聴覚障がい児教育を主とする全国的なネットワーク構築を目指してまいります。（※2）<https://www.hotolink.com/>



■一般社団法人言葉のかけはしについて (<https://www.kotoba-bridge.org/>)

代表理事：岩尾至和（難聴の子を持つ家族会そらいろ 会長）

活動内容：難聴理解の促進、聴覚障がいを持つ中高大学生のキャリア支援、難聴の子を持つ家族の支援
聴覚障がいを持つ人を雇用する法人支援 など

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人言葉のかけはし：岩尾（いわお） e-mail：y-iwao@kotoba-bridge.org